ふ り が な	せきぐち　たつお
氏　　名	関　口　辰　夫
学　　位	博　士（学術）
学 位 記 番 号	新大博（ 学 ）第 59 号
学位授与の日付	平成２０年３月２４日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
博 士 論 文 名	空中写真を活用した筋状地形の研究　－全層雪崩に関連して－

論文審査委員

主査　教授　西　村　浩　一
副査　教授　山　岸　宏　光
副査　教授　丸　井　英　明
副査　准教授　河　島　克　久
副査　講師　渡　部　直　喜

博士論文の要旨

本論文は、申請者が無積雪期の空中写真解析により初めて見いだした、針先で引っ掻いたような細い筋状の地形：「筋状地形」を研究対象とし、

① 空中写真解析を用いた筋状地形の抽出による概要の把握と全層雪崩発生斜面との関係の調査、形成メカニズムの検討、
② 現地調査に基づく筋状地形の詳細な規模、特徴の把握、
③ 筋状地形の全国的分布調査、
④ 筋状地形が最も多く存在する新潟県を対象に、空中写真を用いた詳細な分布調査と積雪深、地形（斜面傾斜、比高）、地質等の要素との関係の検討を行ったほか、
⑤ 筋状地形の形成要因が全層雪崩発生であるという結論に基づき、中越地震被災地を対象とした雪崩発生危険斜面分布図の作成と検証を実施し、その有効性を示した。

審査結果の要旨

審査委員会での審議の結果の概要は以下のとおりである。

① 筋状地形に着眼し、その分布と形成要因を論じた研究は、国際的にも例を見ない独創的かつ新規性のあるものとして高く評価される。
② 丹念なデータ収集とそれに基づく解析は、筋状地形の形成要因について確固たる結論に至っている。
③ 研究成果を応用して作成された雪崩発生危険斜面分布図は、今後の雪崩防災に高く貢献することが期待される。
④ 上記の一連の成果は、地形学、地質学、雪氷学、林学、自然災害科学、それぞれの分野またそれらを抱合した学際的見地からも高く評価される。
⑤ これまでの研究業績も、参考論文が 8 編（全て筆頭著者）を数え、論文博士としての条件を十分に満たしていると判断される。

上記の点を総合的に鑑み、本論文は博士(学術)の論文に十分値すると認定された。